



図書館でのよりよい 医療情報提供のあり方を考える2024

～市民の課題を解決する図書館であるために～

1

市民自身が信頼できる健康医療情報を 必要とする時代へ

・患者中心の医療 (Patient Centered Care) , Shared Decision Making :

患者自身が自分の生活、志向に沿って、医療への希望を伝えたくて治療を選択し、納得できる医療を受ける

・地域包括ケアシステムの導入、障害者が希望する地域生活の実現等 :

市民本人、家族が、適切な情報を得て、自分の生活を選択する

・健康日本21 : 国民が主体的に健康づくりに取りくむための環境整備

疾病や障害、生活上の変化等により、何らかのケアが必要になったときにも、
自分の生活を自分で決定できるための信頼できる情報を必要とする時代

2

課題解決支援としての健康医療情報サービス

・課題解決型図書館を目指す方向性

図書館をハブとしたネットワークのあり方に関する研究会 :

地域の情報ハブとしての図書館 (課題解決型の図書館を目指して)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm (2005年1月)

・健康医療情報を扱うサービスの増加 (2000年代～)

- ・「健康医療情報サービス」としての提供 : パスファインダー、闘病記文庫
- ・館種を越えた協力によるサービスの実現
- ・医療機関と公共図書館が相互に連携した資料の提供 など

(池谷, 2018)

3

医療・行政・公共図書館との連携の魅力

医療機関からみると・・・



- ・元気な人が生活の中で来る場所・医療に無関心な人も。

⇔ 病気になって初めて訪れる病院

- ・小さな町村にも

⇔ がん診療連携拠点病院等の高度医療機関は偏在

- ・社会教育施設としての様々な可能性

⇔ 医療機関でできることの限界

図書館からも・・・

- ・扱いづらい医療情報についての方針を整理する場
- ・レファレンスで答えられない医療や病気についてのリファー先の確保



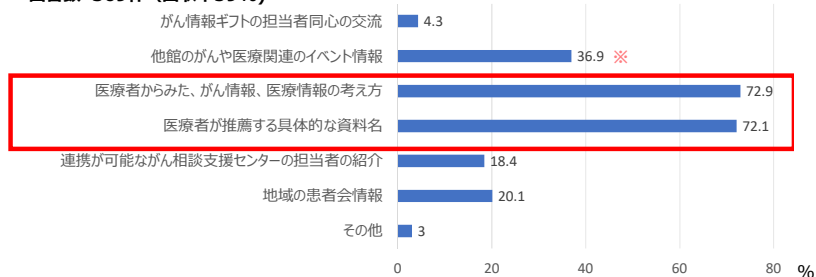
全国711館の公共図書館に
「がん情報ギフト」セットを寄贈



4

全国の「がん情報ギフト」担当者が望む情報は？

2023年末までに寄贈した624館の担当者へのアンケート。2024年3月～4月実施。
回答数 369件（回収率59%）



医療者からみた医療情報の考え方、資料の選び方を知りたい！

本日の企画意図

- がん対策研究所が発行する冊子以外にも有用な資料は多数。しかし、科学的根拠のない資料、場合によっては市民の生活に負の影響を与える資料も多数。
- 市民が必要とするのは「がん」だけではない。



- 図書館の自由、知る権利の保障という重要な理念と、市民が適切な医療を受けることを支援すること、その両立するための共通理解をもつこと
- 「がん」以外の様々な疾患や健康問題について、医療側の視点でとらえた必要な情報を提供するための手助けとなる情報と検討の場をもつこと

本日のプログラム

医療者が知ってほしい、理解してほしい医療情報

がんの基礎知識、標準治療の考え方、気を付けてほしい情報

若尾 文彦 国立がん研究センター がん対策情報センター本部副本部長 / がん情報ギフトプロジェクトリーダー

糖尿病の基礎知識、大事なこと、こんな情報は役立つ

井花 庸子氏 国立国際医療研究センター 研究所・糖尿病情報センター / 病院・糖尿病内分泌代謝科 医師

妊娠期・授乳期の妊婦さんが心配する健康問題、薬のこと、知ってほしいこと

藤岡 泉 国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター 医師

図書館、患者・市民の立場から

コーナーづくりや利用者対応での信頼できる「がん」情報の提供に関すること

松田 公利 和歌山県立図書館 総括司書

患者・市民として図書館に望むこと

轟 浩美 認定NPO法人希望の会 理事長 / 全国がん患者団体連合会

パネルディスカッション

ご質問については、パネルディスカッションの中で取り上げますので、Q&A機能を使ってお寄せ下さい。